

底堅い米景気を受け米金融市場はどうか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米景気の底堅さを示す指標相次ぐ

ここに来て米景気の底堅さを示す経済指標が相次いでおり、FRB（米連邦準備制度理事会）が金融引き締め政策を続けるなかでも、米経済が軟着陸するシナリオが現実味を帯び始めています。直近の指標では、7月の米コンファレンスボード消費者信頼感指数が117.0と市場予想（112.0）を上回り、2年ぶりの高水準となったほか、4-6月期の米実質GDP（国内総生産）も前期比年率換算で2.4%増と市場予想（1.8%増）を上回りました。

経済指標の実績と市場予想の乖離を指数化した米国のエコノミック・サプライズ指数は7月31日時点で76.1と22年以降で最高水準にあります。市場予想以上に米経済が底堅さを保っていることがこの点からも窺い知れ、米景気後退リスクが和らいできたことを受けて、足元で米長期金利がじわりと上昇（価格は下落）する流れとなっています（右上図）。

ポイント② 緩やかな長期金利低下と株高の公算

短期的には米景気の底堅さを背景に米長期金利は高止まりすると考えられます。ただ、FRBによる利上げの累積効果が米経済を減速させるとみられることや、それに伴うインフレ鈍化でFRBが利上げを停止するとみられることから、米長期金利は中期的には緩やかに低下（価格は上昇）しそうです。

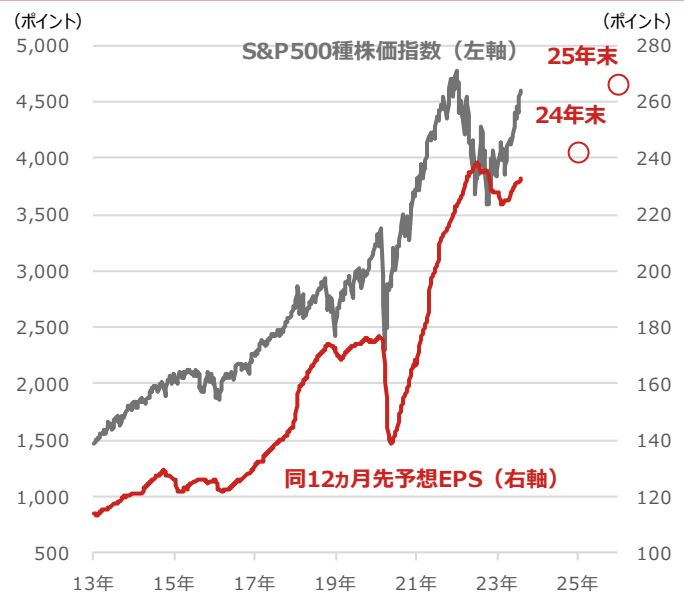
一方、米景気後退が回避されることとなれば、今年上昇が目立っている米国株にとっては更なる追い風となりそうです。S&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPS（1株当たり利益）は足元で再び回復基調にあり、24～25年末に向けては最高益の更新が見込まれています（右下図）。長期的に株価は業績に収れんするとの前提に立てば、米国株の最高値更新は近いといえそうです。

米10年国債利回りと米国のエコノミック・サプライズ指数



期間：2022年1月3日～2023年7月31日、日次
・米国のエコノミック・サプライズ指数は、各種経済指標の発表値と事前の市場予想の乖離度合いを指数化したもの。米シティグループが算出。市場予想よりも各種指標の実績が上回れば指数はプラス方向に振れ、逆に下回れば指数はマイナス方向に振れる。
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と12ヵ月先予想EPS



期間：2013年1月4日～2023年7月31日、週次
・印は2024年末、2025年末のBloomberg予想（2023年7月31日時点）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。